

2018年6月5日（火曜）

参加者：親子6組（子ども6人）

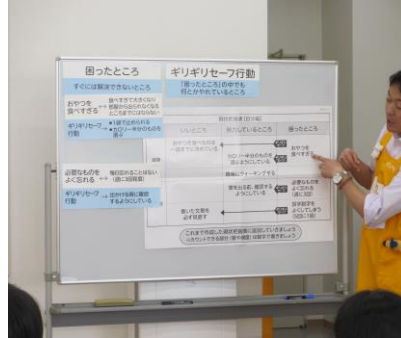
担当：村山恭朗 院生 3人 保育士：2人 スタッフ：2人

内容：ママ・トレ 第4回 「ぎりぎりセーフを見つける！」

10:30～ 11:40



静かに待てます（写真1）



ポイントの説明（写真2）



グループワーク（写真3）

ママ・トレの第4回目『ぎりぎりセーフを見つける！』を行いました。今回も、まずは前回からの2週間の間に「いつ・何を・どんな風に」ほめたのかを報告しあいました。ママ・トレを受けたことで子どもに対するほめ方(認め方)のバリエーションが増えたと感じている参加者が多いようです。親の方が今までとは違った言葉かけをしたことで、反応する子どもたちの様子が明るい方向に変わったそうです。同様の報告がいくつもありました。ママ・トレの実践をしていく中で、母親と子どもとの間に、前向きな新しいやり取りが生まれているようです。

『1回しか成功しなかった』という報告に対しては、『1回だけでも成功したことはすごい』と、前向きにとらえるアドバイスがありました。また、『褒める』時には、母親のテンションを最高に上げる必要はなく緩急が大切であること、『認める』だけで十分な場面もあることなど、ママ・トレ第1回～第5回で学んできたことの細部を丁寧に確認していきました。

本日の本題は、『ぎりぎりセーフを見つける』です。

前回までで学んだ『カテゴリー分け』のコツをつかんだ参加者の記録シートは、カテゴリー分けの整理ができています。それぞれのカテゴリーの中で、『困ったところ』として挙げている項目を困っているだけで終わってしまわないように大事に考え、困ったところと同じ領域で『何とかやっていること』を探していきました。『困っているところ』の中にでも『ここまではできている』ところをグループワークで見つけていきます。その部分を『ぎりぎりセーフ』とみなします。ぎりぎりセーフは、3回に1回という多い頻度でなくても、たとえ100回に1回でもぎりぎりセーフとみなして認めていく方がママ・トレとしてはうまくいくそうです。

ぎりぎりセーフ部分を見つけ出すことで「努力していること」に目が向くようになり、褒めるチャンスを増やせるそうです。ただ、子どもの発達に関する課題は、ぎりぎりセーフが見つからないことも当然のことです。ですから『ぎりぎりセーフ』が見つからなくても決して焦らず、観察する習慣を続けることが重要だそうです。

ぎりぎりセーフを見つけるコツをつかむと、強みとなる部分と苦手なことの両方の傾向とパターンを見つけやすくなります。何がどう苦手なのかを具体的に知ることで先手が打てるようになり、叱る回数が減るそうです。コツをつかんでいくことで、怒らずにほめる機会を増やし、子育て中の悩みが軽くなると、親子双方にとってプラスになります。それらの説明を聞きながらメモをとる参加者の真剣な表情が印象的でした。